



遊んで学ぶ! 命を守る 「くしろ防火・防災かるた」



北海道釧路市防火管理者連絡協議会
事務局（北海道釧路市消防本部内） 高野 哲平

1 団体概要

釧路市防火管理者連絡協議会は、釧路市内の各事業所において、日々防火管理の実務に携わっている防火管理者によって構成される団体です。事務局を釧路市消防本部内に設置しており、会員同士の積極的な情報共有や各種研修会の開催を通じて、地域全体の防火管理体制をより確固たるものにするべく活動を続けてきました。平時より、それぞれの事業所における火災予防の徹底を図ることはもちろん、地域全体の防災力向上に寄与するための幅広い活動にも注力しています。

2 取組の背景

当協議会では、昭和55年から「くしろ防火かるた」の制作を手掛けており、楽しみながら火災予防の知識を身に付けるための啓発活動を継続してまいりました。このかるたは、遊びを通じて防火意識を学べる優れた教材として、市内の小学校などを中心に広く活用され、40年以上の長きにわたって地域に深く根付いてきました。

しかし近年、地震や大規模な風水害といった自然災害が国内各地で頻発し、その被害も甚大化していることから、従来の火災予防対策に加え、防災全般に対する備えの重要性がかつてないほど高まっています。特にここ釧路市においては、千島海溝沿いの巨大地震の発生が現実的な脅威とし

て想定されており、いかにして地域全体の災害対応力を向上させるかが大きな課題となっていました。こうした社会情勢や地域課題の変化を受け、長年愛されてきた「防火かるた」を協議会創立60周年という節目のタイミングもあり大幅にアップデートし、防災視点を盛り込んだ「くしろ防火・防災かるた」へとリニューアルすることを決定いたしました。

3 取組の内容

リニューアルにあたっては、子どもたちの主体性を重視し、市内小学校の3・4年生を対象に「防火・防災標語」の公募を行いました。標語を考えるプロセスは、自分たちの日常生活の中に潜む危険や、事前の備えがいかに命を守るかについて、自ら考えを巡らせる貴重な機会となりました。その結果、合計で1,642点もの熱意ある作品が寄せられ、その中から厳選された44作品が読み札として採用されています。

また、絵札のイラスト制作についても、管内の高校美術部が担当するという世代間連携の仕組みを取り入れました。小学生が考案した読み札のメッセージを、高校生たちが一枚一枚心を込めて視覚化することで、地域に根ざした「地域協働」による教材づくりを実現したのです。完成したかるたは、市内の小学校や児童館へ配布され、防火・防災に関連する行事や地域イベントなどで幅広く活用されています。さらに、



釧路市家庭防災推進員連絡協議会 主催
「小学生かるた大会」



くしろ防火・防災かるたの紹介



協議会会長 藤井 芳和

地域団体である釧路市家庭防災推進員連絡協議会が主催する、かるた大会においても使用されており、地域ぐるみで防火・防災を学ぶ場が定着しています。

4 成果

本取組の大きな成果は、子どもたちが自ら標語を考案し、それを活用して遊ぶというプロセスを通じて、防火・防災を他人事ではなく「自分ごと」として捉える意識が確実に育まれている点にあります。学校での練習やかると大会への参加を通じて、何度も繰り返し標語に触れることで、いざという時の避難行動や注意点が自然な形で記憶に定着する効果が得られています。

さらにこの効果は学校内にとどまりません。家庭での練習をきっかけに、親子で防災セットの中身を確認したり、避難場所について話し合ったりする場面が増えており、子どもたちの学びが家庭の防災意識を底上げするという「意識の波及効果」が見られ始めています。防火管理者団体としての専門的な知見とネットワークを基盤にしつつ、教育機関や消防、地域団体が手を取り合うことで、持続可能な防災教育の形が見えてきました。今後も、この釧路独自の地域特性を活かした防災教育モデルをさらに磨き上げ、地域全体の安全・安心を守る活動を力強く推進してまいります。